

# 夢を盛りこみ仮設ホーム完成

ハンディをささえる  
モノづくり通信

福祉機器住宅研究会

発行責任者

ボランティア c

765-4041

制作協力

朝日新聞大阪本社  
読者室

電話06(201)8033

## グループホーム造りに

ボランティアで協力しました



出来ましたシンボルの看板

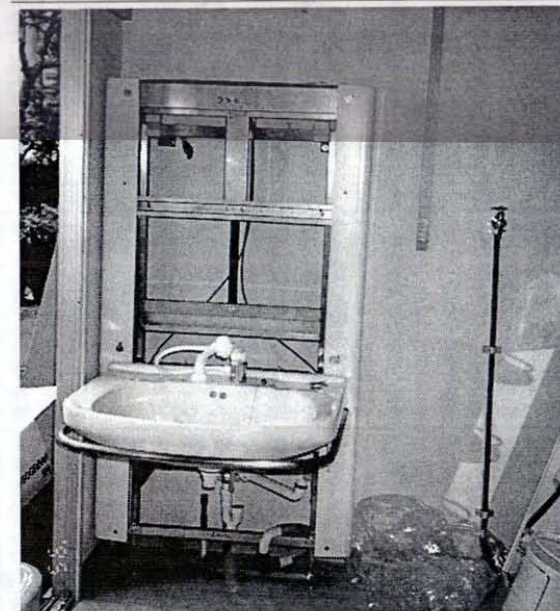


お風呂の椅子に挑戦



手つきもプロ級

プレハブに現地施工部分を組み合わせたユニークな簡易ハウス、それをつなぐウッドデッキ、障害を持つ人たちが描いたシンボルの壁画、いろんな夢を盛り込んだ二棟の仮設ホームは、当研究会代表の中北清氏の設計提案によるものです。



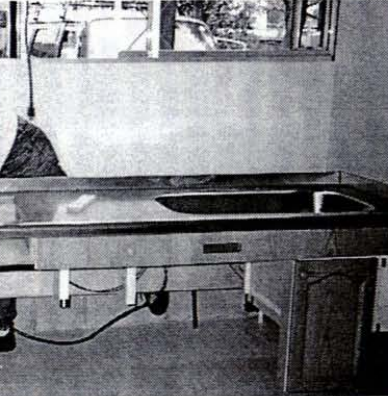
洗面も上下します

完成、改めて会員のチームた。ワークのよさを実感し、ところが、その後日曜毎

青葉園のシンボルたる看板を葉桜の枝やきしなつる

宇賀神紀子

に雨にたなれたましたが、会員の皆さんのパワーはものすごく、次々と難しい作業に挑戦、もちろん失敗も多々ありましたが、全ての作業を難無クリアしました。最終日の4月30日にはシンボルの看板もとりつけ無事完了いたしました。青葉園の皆さんと一緒に乾杯し、一同感激にむせびました。



電動のキッチンも取り付けました

### ことば コトバ

た。

グループ・ホームの目的は、不十分になりがちであった地域生活における考え方、習慣、能力を育み、福祉従事者とは最小限にかかわりながら共同生活を行う家族的な集団で、特定のプログラムはもっていない。

1960年代なほはイギリスでリトルモア病院を中心とするグループ・ホーム運動が起り、その影響を受け、わが国でも大原病院神経科大みか病院共同住居が草分けとなった。1970年代に入ると病院から独立して、地域に根ざすグループ・ホームとして、やどかりの里、むつみ寮、友愛寮などが生まれ

最近では、痴呆性老人のグループ・ホームが効果をあげ、設置を奨励されている。(新社会学辞典より)

# 豊かな生活環境を創造するために

福祉機器・住宅研究会は、平成7年2月4日、大阪市立社会福祉センターにおいて、シンポジウム「高齢者や障害者を持つ方の豊かな生活環境を創造するために」を開催、多数の参加を得て、朝日テレビにも放映され、成功裡に終了しました。

◇ 高齢者や障害者の在宅生活を充実させるには、適切な福祉機器の開発や住宅の改善が重要なポイントです。

しかし、企業への提供する製品は一律的に生産され個々のニーズに合ったものがなかったり、住宅の小さな改造には業者が積極的に対応してくれなかったり、高齢者や障害者を持つ方の要望に添ったものにはなりにくい現状にあります。

こうしたニーズに積極的に対応するため、作業療法士、理学療法士、設計者、工業デザイナー、製作者などの専門家が会して、福祉機器・住宅研究会を平成5年7月に結成、早いもので一年半を経過しました。

このたびのシンポジウムでは、研究会のメンバーである大阪市ホームヘルプ協会の作業療法士・亀谷純子氏、ヒューネット代表のインテリアコーディネーター・後藤秀樹氏、エイジレスライフデザイン研究室代表のフクロクテデザイナー・三浦久子氏、宮崎建設専務・宮崎俊二氏、事務局代表・布施一氏、ユーズ代表として深山律子氏をパネリストに、スギプロダクトデザイン代表の工業デザイナー・杉浦史郎氏にコーディネーターをお願いしました。



## 感謝してまうと

言われ更に意欲わく

杉浦コーディネーターよりパネリストの紹介、研究会の現状についての話があり、引き続き、当研究会の活動を紹介したNHKの「週刊ボランティア」(去年1月放映)を見ていただき、き議論に入りました。

少し重いのです。杉浦 あ、わかりました。脱着式の手すりですね。介護する側からも考えないといけないですね。これは今後の問題ですね。この手のような踏み合などは、上田さんに作ってもらいましたが非常に仕上げのいいものができました。初めに製作ができていたか付けたら外したりするのが

## 安全面に気を使い

これからもいい物を

上田氏 今まではボランティアをしたことがありませんでしたが、私自身も年を取ってきたので、年寄りになったらしてもらいたいという気持ちから参加しました。

月一度いろいろなことを勉強させていただき、今回の仕事を依頼されたわけですが、出来るかどうかわかりませんが、お引き受けしました。

自分を使う物であれば悪けりや直せばいいやと気軽にできますし、今までは仕事として健康者が使っていた物しか作っていませんでしたから、高齢者に使っていただく物として特に安全面に一番気を使っています。

やってみると、ほんとうに喜んでいただけたことを非常に嬉しく、これからいろいろな仕様とか安全性能などを研究しながら、よい物を作っていきたいと念願しています。杉浦 私も上田さんも仕事で一般製品の製作に関わっているのですが、その時の構え方と違うのです。福祉機器の製作はボランティア

## 自信をなくさない

心づかいも大切

杉浦 亀谷さんは仕事として住宅改造にかかわっていらっしゃいますが、制度のことも含めてお話しください。

亀谷 深山さんのところの浴室改造をテレビで見ましたが、たくさん道具がはいつた感じがしました。一寸付きすぎているように思っています。

障害者は使えない部分があるという部分で、この人はどうでないと動作ができないと限定される部分があります。しかし、高齢者の場合は確かに身体機能とか判断力とか落ちてくる面がありますが、使える部分もたくさんあり、時間はかかりませんが合わせていくことができます。

場所とか物とか今の状態にピッタリの物を作ると、馴れてくると邪魔になるということがあります。少し余力を残しておくことも必要です。

最低レベルの設定で物を与えて、それで出来なかったら次に一つ加える、反対になくしていくのであれば気持ちの上で発展できるのではないかと思います。今まで出来ていたことが出来なくなっている感じがする。

三浦 生活用品などの殆どが健康者本位に出来ています。これは、経済優先社会がもたらした結果で、企業の利潤追求のため、やらせモデルチェンジを付けたり、必要のない飾り付けたり、デザイナーも本質から外れたところで追い回されてきたようにおもいます。殆どの製品に、高齢者

## 思いやりがあつて

美しい物を作ろう

杉浦 三浦さんのエイジレスライフデザイン研究室も、福祉を見据えた内容だとも思いますが、当研究会との関わりなどお話しください。

三浦 生活用品などの殆どが健康者本位に出来ています。これは、経済優先社会がもたらした結果で、企業の利潤追求のため、やらせモデルチェンジを付けたり、必要のない飾り付けたり、デザイナーも本質から外れたところで追い回されてきたようにおもいます。殆どの製品に、高齢者

高年齢者世帯が対象で、夫婦の場合どちらかが65才以上であればよく、65才以上の方と障害者の世帯も対象になります。前年度所得が非課税の場合は50万円まで、税額が1円から4万2千円以下ではかかった費用の半額(25万円が限度)が助成されます。

他に日常生活用具の給付制度もあり、これは現物支給です。ベッドや車いすやシャワーチェア、手すりなどの入浴補助用具、手すりや杖などの歩行支援用具等があります。どういう制度があるのかを知らないで

杉浦 たしかに障害者用の道具だといふと大げさなのが多いですね。健康者も一緒に住んでいる家ですから、そういうところにも神経をとがらせないと、つくり手として私もおもいます。布施さん業者として認められるのかの点はいかがでしょうか。

杉浦 みなし業者として業者扱いしてもらえないようになりまして、この制度をうまく利用してあげたいですね。

杉浦 たしかに障害者用の道具だといふと大げさなのが多いですね。健康者も一緒に住んでいる家ですから、そういうところにも神経をとがらせないと、つくり手として私もおもいます。布施さん業者として認められるのかの点はいかがでしょうか。

高年齢になったり障害者を持つと、敏捷性がなくなりつつある行動が出来にくくなる事故につながりやすくなります。高齢者や身障者の行動特性や身体機能の変化をよく理解した上で安全性にも十分配慮した製品を作らなければなりません。

同時に美しさも必要です。障害を持つ人にも、使いやすい美しい製品を使う権利があるのですから。福祉機器の展示場へ行っても素敵な物がありません。車いすにしても女性が乗るにふさわしいやれたものがあるといいですね。ちょっと心のゆとりを感じさせるもの、楽しいものも欲しいですね。これは、私たちデザイナーに与えられたこれらの課題だとも思っています。

杉浦 今まではメーカーの勝手で作って消費者に送りこんでいる製品が多かった。元来道具は使う人の身になって作るのが当たり前のですが、量産システムをとるようになってどうもおかしな感じがしています。

杉浦 今まではメーカーの勝手で作って消費者に送りこんでいる製品が多かった。元来道具は使う人の身になって作るのが当たり前のですが、量産システムをとるようになってどうもおかしな感じがしています。

杉浦 今まではメーカーの勝手で作って消費者に送りこんでいる製品が多かった。元来道具は使う人の身になって作るのが当たり前のですが、量産システムをとるようになってどうもおかしな感じがしています。





